

ここからかなえる夢がある

かなりすてきな 僕らの弟高

北海道弟子屈高等学校
町内唯一の高等教育の場として
1948(昭和23)年の開校から67年
6千人を超える卒業生を送り出してきました
同校ならではの特色あるカリキュラムに加え
地域の支援にも支えられ
生徒は充実した高校生活を送っています
弟子屈高校には「すてきがいっぱい
そんな「すてき」を紹介します

校歌

作詞 小田 親登
作曲 小泉 正松

一 高澄む朝空 かがやく日かげ
生気のあるる 眉根を上げて
希望は逸けし 自主持つ一路
きたふるからだに 知徳を磨く
学び舎弟子屋 励まむいざや

二 そびゆる摩因は 心の高嶺
並み立つ山々 真昼をしづめ
峻しき岩根も おどろの道も
正しき志向に 踏み分け行かむ
学び舎弟子屋 いそしめいざや

三 めぐれる大湖に 北斗は斜め
自然の恵みは 郷土のほこり
柏の林に 春秋過ぎて
美はこれ北国 それさへ試練
学び舎弟子屋 努めむいざや

歴史

これまでの歩み

弟子屈高等学校は1948年10月30日、北海道庁立標茶農業高等学校(現・北海道標茶高等学校)の弟子屈分校として設立が認可されたのが始まりです。

同年12月3日に第1回入学式を挙行。弟子屈中学校の校舎の一角で授業が始まりました。当初は夜間定時制課程でした。

1951(昭和26)年3月16日、定時普通科の北海道弟子屈高等学校として独立。1954(昭和29)年12月5日に校舎が完成、1956(昭和31)年には校旗が制定されました。
1962(昭和37)年に全日制課程となり、同年4月8日、全日制として初めての入学式を挙行しています。

校章(1956年4月16日制定)

十字に組んだクマザサは、北辺の風土に根強く静かに生きる生命と質実剛健な風情を表します。四方に校運の発展を期するとともに、各葉がそれぞれ「知」「情」「意」「体」の均衡ある成長を目指すことを表現。葉元にローマ字の「T」を4個配して、校名を表しました。



校訓(1997年10月25日制定)

自彊不息(じきょうしてやまず)

たゆまず自ら鍛錬に励み、たくましく生きる。



中小企業家同友会による模擬面接指導

企業訪問で説明を受ける生徒たち

職場実習で仕事を体験



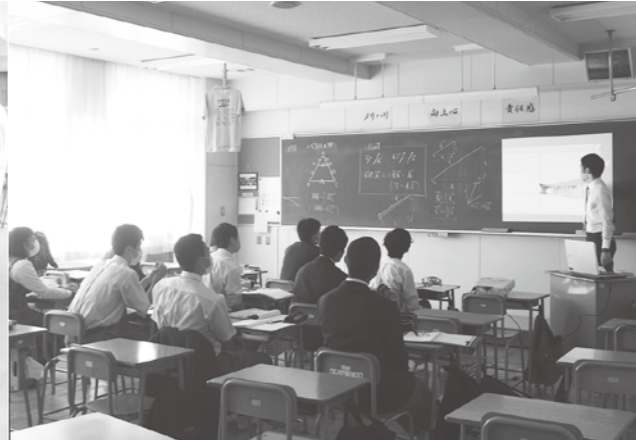
総合的な学習の時間



学習合宿での目標達成を先生も全力でサポート



生きた英語を学ぶ



数学では習熟度別に授業を展開

平成26年度卒業生進路状況(56人)

国公立大学／弘前大学・旭川医科大学・北見工業大学・札幌市立大学・釧路公立大学

私立大学／つくば国際大学・北海学園大学・北海道文教大学・札幌学院大学・日本赤十字北海道看護大学

【進学】4年制大学／15人・短期大学／2人・看護学校／1人・専門学校／22人

【就職】公務員／4人・民間企業／11人

キャリア学習

将来の自分の姿を明確に

「弟子屈高校に入学してよかったと思うことは？」生徒の皆さんに聞いてみると、学年を問わず返ってくる答え、「進路指導が充実していることです」

同校の特徴が「キャリア学習」。総合的な学習の時間を使って、1年生からキャリア学習に取り組みます。キャリア学習とは、将来の自分を考える授業。自分にはどんな仕事に向いているのか、自分にはどんな仕事に向いているのか、世の中にはどんな仕事があるのか。こうしたことを一人一人が考えるお手伝いをする。ここで、生徒は将来の就職先・進学先を的確に見極め、取り組んでいくことができます。

▼キャリア学習の内容

- 職業を知る
- 仕事分析・自己分析の方法を学ぶ
- 適性診断の方法を学ぶ
- 企業・大学の見学、体験事業
- 職場見学、職場実習

● 職場実習

毎年、2年生を対象に実施しています。「働くということ」「職場」「職業人として求められる資質」を学び、進路選択に役立てることが目的。今年

確かな学力向上の場

確実な学力向上を目指し

キャリア学習で明確にした自分の進路。その実現のためには、確かで豊かな学びが求められます。

同校では、さまざまな形で生徒の確実・着実な学力向上を目指しています。

● コース制

同校では「コース制」を導入しています。

2年生から、αコース(大学・短期大学・看護学校への進学を希望、β(公務員・就職、専門学校への進学を希望)の2コースに分かれ、進路に応じた学習を深めます。希望する進路に必要な選択科目が多数用意され、きめ細やかな指導が受けられるほか、同じ進路志望の生徒同士がお互いに励まし合って高め合えるという利点があります。

● 習熟度別授業

同校では、数学と英語の2教科で「習熟度別授業」を行っています。各学年の生徒が「発展」「標準」「基礎」の3コースに分かれて授業を受け、苦手の克服と得意分野を極めることに取り組んでいます。

度は6月24日、25日の2日間にわたり、町内各事業者や官公署などで実際に仕事を体験しました。

生徒の皆さんからは「仕事の楽しさや大変さを学んだ」「社会に貢献する素晴らしさを知った」などの感想が寄せられています。

● 企業・大学見学

毎年、1年生を対象に実施。希望する企業や大学について理解を深めるとともに、社会人としての資質について学び、適切な進路選択に生かします。

今年度は6月23日、釧路市内の企業と釧路公立大学の見学を行いました。生徒の皆さんは各企業の皆さんに積極的に質問を行ったほか、同大学では弟子屈高校出身の学生の講話や模擬講義を体験。充実した時間を過ごしました。

● 面接指導・講話

就職試験などで欠かすことができない面接。面接指導は同校の全教員が対応しているほか、弟子屈町商工会、北海道中小企業家同友会釧路支部摩周地区会の皆さんを外部講師として招き、模擬面接指導や講話をお願いしています。本番同様の緊張感を体験するとともに、自分の課題を確認できる機会となっています。

● 英語指導

同校の英語授業は、全て英語で行われています。2013年度から全面実施されている新しい学習指導要領では、高校の英語授業は全て英語で指導することが基本とされています。しかし、実際には難しく、なかなか実践されていない高校が多いのが実情です。そのような中、同校では、3人の英語教諭が海外研修などで指導力向上に努め、全て英語での授業を実現。生徒は英語を聴く力と、生きた英語力を身につけています。

● 学習合宿

毎年、秋休みを利用して希望者を対象に学習合宿を行っています。合宿中は自主学習が基本。1日最長で12時間程度の学習に励みます。学力の向上はもちろん、進路実現のため計画的、具体的に学習に取り組む、家庭学習の在り方を学ぶ、時間の有効的な使い方を身につけるなどの目標があります。

● サテライト講習

進学希望者を対象に、代々木ゼミナールサテライン予備校講座を開講しています。同予備校で行われている講義を、DVDと配信サービス視聴で受講することができます。



本当に就きたいと思う職業を決められた

公務員志望なのですが、キャリア学習のインターンシップで弟子屈町役場に、職場訪問で釧路市役所に行ったことが、大変ためになりました。進路決定前に職場を見ることで、自分が就きたい職業を決めることができました。

地域探究では観光プランに取り組みました。自分が住む場所に目を向ける、いい機会になりました。子育て支援を充実させるなどして、これ以上人口が減少しないといいなと思います。



3年 岡崎 千尋 君 (βコース)

高校生のうちにマチの未来を考えられた

コース制で、2年生から専門的なことを学ぶことができてよかったです。1年生のうちに進路を決めなければならないことに最初は戸惑いましたが、今になってみるとよかったです。

地域探究では、自分たちが足を運んで体験したこと、見えてきた課題などを、意見として伝えることができました。マチの今後については、若い世代がもっと関心を持つべき。高校生のうちに考えることができてよかったです。



3年 若宮 葵 さん (αコース)

充実の進路指導を1年生から受けられる

進路指導が充実しています。どの先生も話しやすく、相談にもすぐに応じてもらえて助かります。僕は将来、教師になりたいので、来年はαコースに進みたいと思っています。

先生方同様、先輩方も優しく頼もしいです。テニス部に入っていますが、勉強も部活も仲良くさせてもらっています。先輩方は部活でも大活躍しているので、僕も早く追いつけるように頑張りたいです。



1年 土屋 証 君

先生方の手厚いサポートがうれしかった

先生方が親身になって学習面のサポートをしてくださって、心強かったです。私は川湯中学校出身で、先生と生徒の距離が近い環境にいたため、高校進学後はどんな感じだろうと少し不安に思っていました。同じく弟子屈高校に進学していた姉の勧めもあり、こちらに進学しましたが、本当によかったです。特に進路指導に一生懸命で、1を聞いたら10返してくれるほど。とてもいい雰囲気の高校です。



2年 濱岡 日菜 さん (αコース)



役場で町政提言を行う生徒たち



観光プランニングの校内選考

町政について説明を受ける(上) 観光地を調査(下)



テニス部

陸上部



バレー部

野球部



クッキング部

バドミントン部

● 地域課題研究 ●

進学を希望するαコースの生徒が取り組んだのが地域課題研究。高校生目線の町政提言をしたいという考えから始まりました。人口が減り、若者が少なくなってきたというわがふるさとの現状をどうとらえ、どうしていきたいのかについて提言。最終目標を「弟子屈町の人口増加」とし、2つのグループが「豊

ふるさとをよく知るため 地域探究

同校では、総合的な学習の時間で地域探究に取り組んでいます。ふるさと弟子屈町への理解を深め、マチが抱える課題の解決方法を探ることが目的。6月4日には地域巡検として町内の観光地を調査したほか、役場で町政についての説明を聴きました。今年度は初めて、3年生が「議会発表・町政提言」を実施。9月16日に徳永町長や小林教育長、八幡町議会議長などを前に地域探究の成果を発表しました。

これまでのキャリア学習も含めて、3年間の集大成という位置づけ。それぞれの進路をかなえつつある3年生が「いつかきつと帰ってくるふるさと」をテーマに提言を行いました。

● 観光プランニング ●

公務員・就職希望のβコースの生徒が取り組んだのが観光プランニング。同校では毎年、3年生が「全国高校生観光プランコンテスト」(同大会組織委員会主催)に応募する取り組みを行っています。高校生が考案した地元の観光プランを競い合う大会で、βコースの生徒が7つのグループに分かれ、弟子屈を満喫できる観光プランを作成。校内選考を突破した3つのプランが、コンテストに応募されました。

議会発表・町政提言では、このうち2つのプランを紹介。都会の親子連れをターゲットにした「親子でどこ行く!?! Lakeの街で思い出Make!」(食育・水育・木育の旅)、アイヌ文化に触れる「アイヌ of life テシカ・カオッタ バイエア ンロ」が提案されました。

同校では、部活動も活発に行われています。

陸上部からは今年、西田健修君(3年)、中島知明君(同)、野下ちはるさん(2年)の3人がインターハイに出場。テニス部は秋季釧根支部大会で初のアベック優勝を飾り、そろって全道大会へ出場しました。他に、野球部が秋季大会釧根支部選でベスト4入りなど、楽しみながら学業との両立に励んでいます。



弟子屈高校から始まる
それぞれの夢をかなえる道



木村 浩士 校長

小・中・高の連携を深めて グローバルに活躍できる 生徒を育てたい

充実した高校生活が
ここにはあります

4月に着任した校長の木村です。昨年度、本校では4年制の国公立大学に6人が合格しました。1学年2クラスという規模の小さな学校としては、鹿追高校と並んで道内トップの人数です。小さな学校ですが、よく頑張っているという印象です。

こうした結果は、2012年度から始まった「コース制」の効果がよく表れた成果だったのかなとも思いますが、きめ細やかなカリキュラムが可能になり、進路希望に合わせた強化の選択ができるようになりました。

また、町からの支援を受けて代々木ゼミナールサテライン予備校講座を導入するなど、地域にも支えられています。教員も皆熱心で、頑張ってくれています。進学だけではなく、就職希望者も頑張っています。内定率は、ここ5年連続で100%となっています。今年度も順調に決まっています。

少人数だから、生徒それぞれの目標に合わせた指導が可能なのだとも思います。ですが、今後、生徒が減ると、合わせて教員も減ってしまう。習熟度別授業なども、教員が減ってしまえば難しくなってしまうため、生徒の減少は何とか食い止めたいところです。地域の皆さんに支援されながら、特徴ある教育を行ってきた本校です。

本校は部活動も活発です。生徒の約80%が部活動を行っています。生徒たちの頑張りで、好成績を上げていく部活動も多々ありますし、学習面と合わせて、みんな充実した高校生活を送っていると思います。

今後目指す教育 12年一貫したキャリア教育

今後は、小学校・中学校との連携をさらに深めていきたいと思っています。小・中・高と12年一貫したキャリア教育や、ふるさと教育をしていきたいと思っています。地域を知り、その良さを知り、課題を知る、理解する……といった教育です。

本校の生徒は、ずっと弟子屈で暮らしてきた子どもたちがほとんどです。ですから、卒業後は一度、町外へ出て、さまざまな経験をしてほしい、そしてまた弟子屈に戻ってきてほしいと思っています。それが、マチの人口減少に歯止めをかけ、地域を活性化させることにつながると思うからです。戻ってくるためには、マチのいいところを生かし、課題を解決できる人間であることが必要。そうした生徒を育てていきたいと思っています。

また、学力向上への取り組みも、小・中・高が連携していけたら……と思います。必要な力を身につけられるようなプログラム、特に英語教育に注目しています。小・中・高を通して、実践的な英語力がつくようなプログラムを考えたいと思います。できれば、中学生か高校生で海外研修に行けるといいですね。その先のモチベーションにもつながります。そして高校卒業後、外国人と難なくコミュニケーションが取れるようにしたい。ガイドや通訳など、その後の職業選択の幅も広がります。